

塩谷郡市医師会だより

Contents

平成20年度第1回役員会
 学術講演会の報告
 塩谷地区休日夜間こども診療室総会

第53号

社団法人 塩谷郡市医師会

さくら市桜野1319番地3
 さくら市氏家保健センター内
 TEL 028(682)3518

平成20年度第1回役員会報告

平成20年5月12日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会事務室にて開催された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・西・後藤・軽部・佐野・岡・本間・尾形新・大和田・池田・越井・川原事務長



■議題 塩谷総合病院移譲問題について

尾形会長より経過報告がなされ、現時点で国際医療福祉大学が受け皿となる方向で県が調整しているとの説明があった。

(次のページに詳細)

■議題 こども診療室運営協議会役員会の開催について(報告)

阿久津副会長より報告がなされ、塩谷総合病院の件もあり、今後の運営について秋に再度会議を開いて検討する。(P2,3 報告あり)

■議題 特定健診・保健指導について

2市2町で対応が違うことが報告された。

■議題 「各種委員会の事業計画」について

(1) 保険委員会(山田副会長報告)

保険診療で腑に落ちない点があったら、遠慮せず大和田先生に連絡してください。「返戻」は病名を追加して提出。「査定」は復活請求をして欲しい。

(2) 介護保険委員会(尾形新理事報告)

6月15日(日)に県医師会介護保険研修会が宇都宮市のホテルニューイタヤで開催される。11月には「かかりつけ医認知症対応能力向上研修」が氏家保健センター集団指導室で開催される。

(3) 感染症対策委員会(軽部理事報告)

中学生、高校生MR(麻疹・風疹混合ワクチン)接種についての報告。新型インフルエンザ対策が県医師会でも検討される予定。

(4) 研修(学術)委員会(岡報告)

年間6回の講演会と脳卒中予防講習会を1回予定。

(5) 研修(産業医)委員会(阿久津副会長報告)

産業医更新に必要な講習会やケースカンファランス等を従来同様に行う予定。

「医師会だより」は活字の大きさを大きくして読みやすくしました。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	川原 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

(6) 塩谷都市医師会史委員会(岡報告)

新たに発掘された資料の整理と医師会史続編の編集方針などを決める予定。

(7) 広報委員会(岡報告)

医師会だよりの発行と2市2町の広報に連載している「養生のススメ」を継続していく。その他、一般住民向けの対外広報を検討する。

(8) 社会活動報告(尾形新理事報告)

9月28日(日)に塩谷町の塩谷中学校アリーナで公開講座を行う。講師は元アナウンサーの小林完吾さん、テーマは脳梗塞。

尾形会長より6月19日に開催される栃木県都市・大学医師会正副会長懇談会で取り上げて欲しいことがあったら連絡して欲しいとのアナンスがありました。

塩谷総合病院の経営移譲問題について

昨年12月末、JA厚生連は塩谷総合病院からの経営撤退を発表した。塩谷総合病院は塩谷地区の最も重要な中核病院であるため、塩谷都市医師会では本年1月に臨時役員会を開催し、対応を協議した。医師会では広域行政と連携して署名活動を行い、県知事に提出した。またJA厚生連に公開質問状を提出したが、はっきりした回答は得られなかった。その後、水面下で移譲先の検討が進められていたようだが、詳細は明らかにされなかった。

そして、新聞等でも報道されたように、5月19日(月)県庁において麻生副知事が座長を務め、JA厚生連、2市2町の長と本医師会の尾形会長が出席した会議が持たれ、関係団体の総意で国際医療福祉大の高木理事長に同病院の経営引き受けを正式に要請した。その席で高木理事長は「慎重に検討を進める」と回答したが、今後国際医療福祉大へ経営移譲する方向で話が進むものと考えら

れる。ただ、全国的に医師不足の傾向があり、新病院がどの程度の医師を確保し、中核病院としての機能を維持できるかはなお、不透明である。今後の推移を注意深く見守る必要があると思われる。(文責:岡)

塩谷地区休日夜間子ども診療室 運営協議会役員会報告

日時:平成20年4月22日(火)18時30分

場所:さくら市氏家保健センター集団指導室

出席者:尾形直、中村(塩谷総合)、軽部

植木、仲澤、阿久津博、谷口、川原事務長

塩谷総合;松本事務長 黒須;栗原事務長

塩谷広域;高久事務局長、川崎、増淵、阿美

矢板市;伊藤 さくら市;大山

議題

(1)平成19年度「塩谷地区休日夜間子ども診療室」運営状況について

平成19年度の受診者数は649名(昨年度665名)、「しおや」が407名(昨年度330名)、「くろす」が247名(昨年度335名)であった。施設間で受診者数に開きができたが、矢板市の受診者が60名増加したことは、住民に認知されてきたのではないかと、小児医療に対する行政への苦情がなくなったなど好意的な意見が出された。

一方さくら市の受診者が70名減少したことは、高根沢地区では小児科医が常駐する宇都宮市夜間診療所と比較されること、さくら地区では休日当番医の小児受診者が多いことがあげられた。傷病種別、年齢別、時間帯別の集計ではおおむね昨年度と同様の傾向であった。

(2)子ども診療室の今後の対応について

塩谷総合病院勤務医が経営移譲問題から6月以降不参加を表明しており、19日分診療できなくなっていることについて議論がなさ

れた。診療日を減らして運営することも検討されたが、受診者が増加していること、不定休による混乱が受診抑制につながる可能性があることなどから、塩谷町・矢板市の会員に再度お願いして平成 20 年度は予定通り診療することとなった。(負担増となる先生方のご理解とご協力をお願い申し上げます。)

(3) その他

平成 21 年度の運営については、協力医師数の減少から現状維持が困難ではないか、一本化するか交互診療とするなど縮小を検討すべき、休日夜間の他地区への受診状況を調査する必要がある、など意見が出された。

塩谷病院の経営移譲先が決定し運営方針が決まらなると「こども診療室」設置の協力が得られるか不透明であるので、10 月頃に役員会を招集し再度検討することとなった。

(報告：阿久津博美)

	平成 18 年	平成 19 年
総数	7462	8236
15 歳以下	3144	3431
小児比率	42.1	41.7
(地区別)		
塩谷町	1131	1231
15 歳以下	494	497
小児比率	43.7	40.4
矢板市	1655	1883
15 歳以下	679	712
小児比率	41.0	37.8
さくら市	2208	2540
15 歳以下	1143	1295
小児比率	51.8	51.0
高根沢町	2468	2582
15 歳以下	828	927
小児比率	33.5	35.9

こども診療室受診者

	平成 18 年	平成 19 年
「しおや」	330	402
「くるす」	335	247
合計	665	649

(地区別)		
塩谷町	34	49
矢板市	236	296
さくら市	244	170
高根沢町	80	67
その他	72	67

学術講演会報告

● 日光医療センターにおける 地域医療連携状況について

獨協医大日光医療センター病院長

中元隆明先生

平成 20 年 4 月 18 日(金)

講師の中元先生は循環器疾患と呼吸器疾患両方の専門家で、平成 18 年 4 月に開院した獨協医科大学日光医療センターの病院長を務められている。同病院は 23 名の常勤医師が勤務しており、循環呼吸器科、消化器内科、外科、整形外科が複数勤務しており、麻酔科、放射線科医も常勤している。また、今後病理医も勤務する予定で、病理解剖も行うとの話であった。

診療設備も最新のものを備え、特に 64 列マルチスライス CT や蛍光気管支鏡など特筆すべき施設もある。また、近年、慢性心不全患者の半数はチェーンストークス呼吸を伴い、予後が悪いことが明らかになったとのことで、睡眠時無呼吸症候群の診断に力を入れているとのことであった。最後に心筋梗塞などの急性冠症候群には 24 時間対応する体制になっているという心強い話があった。会場から在宅酸素療法中の患者さんの具合が悪くなった時の受け入れについて質問が出て、中元病院長からは受け入れが可能であるとの答をいただいた。ただ、一度日光医療センターを受診してもらったほうがスムーズに受け入れできるとのことです。われわれの

地域で不足している分野の専門医がそろっており、尚且つ二次だが三次救急病院に近い仕事を行っている心強い病院が案外近くにあったことを知ることが出来た講演会であった。（報告者：岡）



● 「睡眠時無呼吸症候群の臨床と
地域医療連携」

獨協医大内科学（神経）准教授

宮本雅之先生

平成 20 年 5 月 20 日(火)

睡眠にはレム睡眠とノンレム睡眠があり、ノンレム睡眠はサルやヒトなどの高等生物しか行わない。犬や猫がちょっとした物音で目を覚ますのはレム睡眠しかしていないからである。ヒトは赤ちゃんの時は寝たり起きたりを繰り返す多相性の睡眠をとり、小学生くらいで一回の睡眠ですむ単相性となり、40歳を過ぎる頃から再び多相性の睡眠となる。お年寄りがすぐうとうとするのはそのためである。宮本先生は睡眠医学を専門としており、以上のような基本的なところから睡眠について説明してくれた。

現代社会では睡眠時間が短縮する傾向があり、睡眠障害から事故を起こしやすくなり、また生活習慣病のリスクファクターとなる。事実、生活習慣病を多く持つ人ほど睡眠に対する悩みが多くなる傾向があり、睡眠障害は

糖尿病の大きな発症リスクになるという。

また、睡眠時無呼吸症候群は本邦では 200 万人いると予想される。これは糖尿病や心疾患、脳血管障害などと同じくらいの患者数だが実際に診断され、加療されているのはごく一部とのこと。一般内科医が生活習慣病の患者さんに睡眠障害の有無を確認しているのは 2 割ほどという統計もあり、もっとわれわれかかりつけ医は睡眠時無呼吸症候群を含めた睡眠障害について関心を持つ必要があると感じた。

さらに、獨協医大では耳鼻科、内科、口腔外科など関係各科が睡眠医療部を運営し、睡眠障害の患者を診察しているとのことで、今後地域との医療連携を積極的に進めていくとのことでした。（報告者：岡）



左：講師の宮本先生

右：座長の岡理事

事務局からのお知らせ

納涼会のご案内

日 時：7月25日（金）午後7時から

場 所：さくら市 ハートピア喜連川

会 費：3000円

多くの会員の参加をお待ちしております

塩谷都市医師会のURLが変わりました

栃木県医師会のサーバー移転に伴い、塩谷都市医師会のホームページアドレスが変更になっておりますのでお知らせいたします。

<http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/>